

平成30年8月14日

豊田市議会議長 鈴木 章 様

地域生活委員会

委員長 古 木 吉 昭



委員派遣実施報告書

本委員会は、下記のとおり委員派遣を実施しましたので、委員会条例第37条第1項の規定により、実施報告書を提出します。

記

- 1 日 程 平成30年7月31日（火）～8月2日（木）
- 2 派遣先 31日（火）…兵庫県姫路市／
及び内容 姫路市消防防災運動会「まもりんピック姫路」
1日（水）…兵庫県加古川市／
NET119 緊急通報システム、見守りサービス
2日（木）…福岡県福岡市／
水道管漏水発生時のスマートフォンを活用した
LIVE 映像転送システム
- 3 派遣委員 委員長 古木 吉昭
副委員長 宮本 剛志
委 員 都築 繁雄 牛田 朝見 深津 眞一
榎屋小百合 原田 隆司 塩谷 雅樹
- 4 報告書 視察報告書のとおり
- 5 その他 随行者 川北 尚志 伊藤 圭一

視察報告書様式【1】

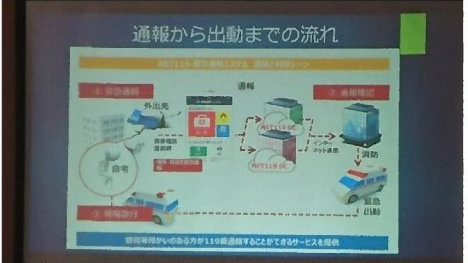
委員会名	地域生活委員会	委員長	古木 吉昭
視察日時	平成30年7月31日（火）午後1時30分～午後3時00分		
視察先・概要	兵庫県姫路市 - 中核市 - 人口：531,750人(H30.6.1現在) 面積：534.35km ²		
視察内容	姫路市消防防災運動会「まもりんピック姫路」について		
選定理由	姫路市は、災害を想定した消防防災競技やゲームを通じて、住民の防災意識と共助の精神を高めることを目的に、平成20年度から消防防災運動会「まもりんピック姫路」を開催している。防災訓練という従来の形式ではなく、競技・ゲーム形式で楽しみながら防災技術を習得するという全国的にも珍しい取組であり、今後発生が予想される南海トラフ地震の防災対策推進地域に指定されている本市においても参考になると判断したため選定した。		
豊田市の現状と課題	豊田市は、第8次総合計画の基本施策の一つとして、「自助・共助・公助による災害対策の充実」を掲げ、地域防災力の強化を進めている。広大な市域を抱え、また転入人口の多い本市にとって、災害等発災時における地域住民の共助は必要不可欠なものであり、この共助の意識をいかに高めていくかが重要な課題である。		
視察概要	1 まもりんピック姫路の開催経緯及び概要 ・「防災の日」に開催していた表彰と講演会で構成する「姫路市市民防災のつどい」と市の「総合防災訓練」を、もっと沢山の市民が楽しみながら習得できるものとなるように、市長の発案から予算無し手探り状態で始まった。 ・効果的な啓発や市民への定着、また、魅力的でしかも実際に役立つ競技種目の考案などの策定業務を有識者へ依頼した。 (当時)東京工業大学 都市地震工学センター 梶 秀樹特員教授 ・市内全域の自治会を対象に5ブロック(5消防所管区域)に分け11月に予選会を実施。各ブロック代表が平成21年3月に陸上競技場で行った。 ・愛称も全国に募集し、「まもりんピック姫路」に決定した。 ・平成22年3月に「第14回防災まちづくり大賞 総務大臣賞」を受賞。 ・主な競技内容：担架搬送ゲーム、被害・安否情報伝言ゲーム、ちびっこ消防隊消火リレー、水バケツリレー、消防団防火着装リレー、災害救助ゲーム、防火障害物リレー、ちびっこ消防隊水玉入れゲーム、ちびっこ救急隊ケガ人搬送リレー ・危機管理の組織：6人体制 2 工夫している点 ・午前中に終了する形態としている。 ・毎回開催後にアンケートや意見を集約して、次回開催へ生かすようにしている。 ・競技内容の展開について職員がDVDの録画映像により各自治会長さんへ配布するとともに、申し出があれば自主防災隊長への実演説明会も実施する。 ・職員の企画及び準備の負荷を軽減するため、2年／回で実施している。 ・第4回大会は、市民の意見を参考に幼年から高齢者まで幅広い参加となるよう「一般公募による参加者募集」を取入れた。 ・第5回大会は、幼年消防クラブ(保育園などを対象)を中心とし		

	た競技内容に変更し、当日の飛び入り参加も可能として開催。 3 課題 ・参加者の推移が伸び悩んでいること。 ・各地域での開催に移行する方針であるが、実施月及び参加しやすい競技種目の検討が課題 ・マンネリ化対策と参加者の確保ができるよう、各地区で自主的に実施しやすい競技種目・内容を検討し、幅広い年齢層の市民が自主的に気軽に参加できるイベントとするよう検討中。
評価とその理由	・競技内容の DVD 配布や自主防災隊長への実演説明会の実施など、きめ細やかに対応しており大変良い取組である。一方で、その対応が日常の消防業務に影響がでないか心配な部分もある。
本市に反映できること	・各自主防災会及び自治区での同様な取組を取入れる場合に競技実演 DVD の配布は、反映できる取組である。 ・簡単で魅力ある競技など各自治区や自主防災会の訓練への紹介する事も必要である。
その他 (意見・課題 など)	・まもりんピックの視察も平成29年度7件の実績があるため、消防職員の説明が丁寧でわかりやすく感心した。とても良い事業であるがどうしてもマンネリ化と言う課題となる事を改めて再確認した。 ・姫路城の来場者数が、286万人という国内有数の観光地でありうらやましく思えた。また、市長としてまちづくりを親子2代に渡り務めていると聞き都心のまちづくりにも尽力されている事にも感心した。現在姫路城までの歩道整備として、ムクドリの糞害対応に向け街路樹を伐採して歩道に伐採木を活用したベンチを整備しているところも確認した。    

視察報告書様式【2】

委員会名	地域生活委員会	委員長	古木 吉昭
視察日時	平成30年8月1日（水）午前10時00分～正午		
視察先・概要	兵庫県加古川市 人口：263,983人(H30.6.1現在) 面積：138.48km ²		
視察内容	NET119 緊急通報システムについて 見守りサービスについて		
選定理由	加古川市は、スマートフォンや携帯電話の Web 機能を利用して文字による緊急通報を行う「NET119 緊急通報システム」や登下校する子どもや高齢者などの移動情報を家族に知らせる「見守りサービス」を運用している。本市においても多様な 119 番通報手段の導入や子どもや高齢者を犯罪から守る取組は重要な課題であり、すでにシステム、サービスを導入している加古川市の取組は本市にとって参考になると判断したため選定した。		
豊田市の現状と課題	豊田市は今年度「NET119 緊急通報システム」の導入を予定している。今後の消防力強化においても重要な取組であるが、新しい事業であることもあり、運用体制の構築や普及啓発が課題である。 また、「犯罪のないまちづくりの推進」を重点取組項目に掲げており、防犯教室の実施や特殊詐欺の啓発などを実施している。犯罪被害にあいやすい子どもと高齢者を犯罪から守るためにも、現状の取組に加えて、先進機器を使った見守りサービスなどの新たな取組の充実が課題である。		
視察概要	1 NET119 緊急通報システム導入について ①導入に至る経緯 ・聴覚障がい者の方は、自宅からの FAX で緊急時に送信する方法のみであった。外出時は、対応できない状況である。 質問)・現在までの FAX の実績⇒1 件のみ ・聴覚障がい者の方からの要望による導入か⇒聴覚障がいの方の緊急時対応を充実させるため。平成 28 年 11 月に導入。 ②概要と主な特徴 ・事前登録している聴覚障がい者の方が携帯電話やスマートフォンへアプリをダウンロードして WEB 機能（チャット機能）を利用して緊急通報を行う。 ③運用状況と課題 ・登録者数：加古川市 53 人、稲美町 4 人、播磨町 0 人 ・通報件数：平成 28 年 3 件、平成 29 年 0 件、平成 30 年 1 件 - 内容：3 件は誤報、1 件病院の問い合わせ ・課題：全ての聴覚障がい者登録に至っていない為、周知の強化 ・周辺他市の導入が無く市外へ出かけた際対応できないため、広域連携が必要。 質問)・市民への周知方法⇒広報や HP、市民への説明会も実施 民生委員との連携なし ・事業の予算：388 万 8 千円 ・到着後の様態等の確認方法⇒手話通訳を搭乗させる。 ・聴覚障がい者の登録率⇒53 名/587 名（約 9%） ・入電対応の職員体制⇒常時張りつく事ができず入電時に警告音とランプで知らせる。		



	2 見守りサービス導入に ①導入に至る経緯 ・平成27年12月加古川市河川敷での女性殺害事件が全国ニュースとなり、安全確保に対する意識の高まりにより高齢者や子どもを見守る地域無線ネットワークを市内全域に整備する方針を決定した。 ②概要と主な特徴 ・ICTを活用した（仮称）「安全・安心見守りネットワーク」の構築 ・緊急時の通報支援（400万円）：聴覚や言語に障がいのある方のためにスマートフォンや携帯電話のGPS機能を利用する事で外出先でも簡単に素早く119番通報できるもの。 ・子どもの登下校や認知症のため行方不明となる恐れのある人の見守り支援（4,600万円）：タグや見守りアプリをインストールして見守り対象者を感知するセンサーを取り付けてハードとソフトで見守る。登録者数800名登録（内80名高齢者） ・市内全域に見守りカメラの設置：1,500カ所目標 質問）事業費は：⇒4億3,000万円、ランニングコスト5～6,000万円 ③運用状況と課題 ・市がデータ保管管理：運用に関する条例、保存に関する条例有 ・官民共働で取り組む事業 ・見守りボランティア登録者数：7,000ダウンロード、 質問）・見守りデータ送信頻度：300m間隔でセンサー等を設置 ・タグの反応範囲：⇒30m～100mで反応 ・更なる普及啓発の拡大：小学1年生へ経費補助などにより啓発強化を検討中
評価と その理由	・ICタグを子どもや高齢者に持たせセンサーで見守る取組は子どもと高齢者の安否確認ができる大変有効な事業である。 ・カメラの市内全域1,500カ所を目標としている点も評価できる。
本市に反映 できること	・ICタグやカメラの犯罪多発地域など設置目標を設けている点も事業として検討する必要がある。
その他 （意見・課題 など）	・豊田市では、防犯カメラ設置補助により積極的に取り組んでいるが加古川市のような見守りボランティアの登録などにより、安価に見守りのネットワークの構築につながると考える。    

視察報告書様式【3】

委員会名	地域生活委員会	委員長	古木 吉昭
視察日時	平成30年8月2日（木）午前10時00分～午前11時30分		
視察先・概要	福岡県福岡市 - 政令指定都市 - 人口：1,576,568人 面積：343.39k㎡		
視察内容	水道管漏水発生時等のスマートフォンを活用したLIVE映像転送システムについて		
選定理由	福岡市は、水道管漏水など緊急事態が発生した際、迅速かつ的確に対応するため、平成28年6月から漏水現場のLIVE映像転送システムを運用している。このシステムは水道局事務所内で現場状況を把握でき、必要に応じて現場職員へ助言・指示し、迅速かつ適切な措置を可能とするものである。この取組は、今後の本市においても参考になると判断したため選定した。		
豊田市の現状と課題	豊田市は今年度、危機管理体制の強化に向けICT（タブレット等）を活用した施設点検及び施設情報収集手法の確立を目指して取組を進める予定であるが、にがり水や断水にもつながる漏水への対応も危機管理として重要であり、漏水発生時には迅速な修繕が求められる。しかし、現状では、現場の確認や配管図の確認など、修繕までに時間が掛かることもある。そのため、ICTの活用など様々な手法を用いて、いかに早く修繕方法等の判断を下し、修繕までの時間を短縮させられるかが課題である。		
視察概要	1 導入に至る経緯 - 福岡市は、一級河川を有しないため9つのダム（内6つは市外）を建設し有効貯水量は約8,952万㎡と水道企業団受水、近郊河川から年間総取水量1億4,711万㎡で市民へ水の供給を実施している。その中で、昭和53年と平成6年の長期的な給水制限を伴う渇水を経験した。その教訓を生かして、水を守るための取組を推進している。また、大正12年より通水を開始した上水事業のために老朽更新や維持管理費抑制のための取組が重要視されている。 - 老朽化による漏水対応では、職員の初動が迅速な復旧につながる事から現場と事務所との情報共有が可能な有効な手段である。当初はLINEで画像転送により現場と事務所及び職場メンバーとの情報共有を図っていた。 - LINEでは画像のみのため、現場の状況が断片的であり細部にわたる状況把握のためには、現場の動画など事務所との連携が図れる先進的な取組が求められていた事から、市販の映像転送システムを活用する事とした。 2 概要と主な特徴 ①LIVE映像転送システム 6台のスマートフォンとパソコンの端末とがネットワークでつながっている。漏水現場から直接スマートフォンで現場映像を送る事ができる。事務所から指示もできるため状況を細かく把握するやり取りができる。 ②管路データ閲覧機能 現場で確認したい管路図面などパソコンへ呼び込むことにより、住宅への配管経路、口径、また、山間部においてわかりにくい場所の図面も現場で確認ができる機能。 質問) タブレット端末の検討はされたか。⇒図面を確認する場合は、タブレットタイプが良いとの意見もあった。しかし、現場に資器材などを持ち込む等、破損や持ち運びの利便性を考慮してスマートフォンとした。 3 運用状況と成果 - 市域を3ブロックに分け体制16名の昼夜交代制で日々の業務に対応。 329日、928回の利用日数 - 経費： 約100万円／年 初期投資30万円 通信費等70万円 - 成果： コピーや必要書類を取りに行く作業時間及びペーパーレス化		

評価と その理由	・ ダムの供給域は、一般的に限定区域とされている。しかし、福岡市の場合は、全てのダムがつながっており1つのダムの水が無くなっても他のダムから給水できるよう、相互融通というシステムで運用している。この事が安心安全な水道事業となり全国に誇れる取組であり、とても素晴らしいと考える。 ・ 人材育成の面で豊田市においても団塊の世代の下水道技術・知識・技能等において、実際の漏水現場で映像をもとに職員の情報共有を図る事で、多種多様なOJTにつながっており大変有効である。 ・ 管路の台帳整理がすでにできており、その台帳をもとに台帳閲覧が可能となっている点も評価できる。
本市に反映 できること	・ 本市の平成31年度までに構築する台帳システムが完成した際、福岡市のように閲覧でき、尚且つICTを活用した施設点検及び施設情報収集手法を確立して生かされる事を大いに期待する。 ・ 日常業務の引き継ぎ等においても画像等を活用して行っている点は、豊田市においても取り入れるべきである。また、人材育成面においても導入により人材育成の効率化、技能・知識の継承、更に作業の効率化、ペーパーレス化など効果も大きいと判断できるため反映すべきである。
その他 (意見・課題 など)	・ 給水の有効率97.8%、漏水率2.0%は政令指定都市及び全国トップレベルの水準であり素晴らしい事である。また、ダムが相互融通できるようにダム建設及び管路整備をしてきたことに関してとても感心した。この事は、一級河川を有しない福岡市ならではの観点であり先人の知恵の結晶ではないかとも思った。 ・ 映像を活用して情報共有化や人材育成に生かせることは大変良い事である。一方でデータ保存管理などの体制等の構築もあわせて検討する必要がある。 ・ 水管理センター内の中央コントロール室で日常管理等の業務を見せていただき、水圧計や流量計、電動弁等が集中管理により全国有数の水道事業の有効率につながっている事が確認できた。広大な市域を有する豊田市において中核市のトップランナーとして位置づけられるように取り組んで欲しいと感じた。 ・ 豊田市には海はないが、福岡市では海水から真水を作る設備導入を行っており、その先進的取組にも感心した。    